

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600315		
法人名	社会福祉法人 義乃会		
事業所名	グループホーム なかよし荘		
所在地	青森県十和田市大字深持字南平312-6		
自己評価作成日	令和 2 年9月20日	評価結果市町村受理日	令和3年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和 2年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・4月上旬に当ホームで入居者様とスタッフ合わせて9名が新型コロナウイルスに感染し、入院しました。また、施設内クラスターが発生し、各方面、ご心配とご迷惑をおかけしたことを此処にお詫び申し上げます。</p> <p>・面会制限や集団での行動制限等、以前の日常とはほど遠いが、感染防止対応に重点を置かざるを得ないこの状況に対し、入居者様には大変申し訳なく思っています。</p> <p>・入居者様とご家族との交流の大事な場としていた運営推進会議も、コロナ禍のため開催がままなりません。</p> <p>・認知症一人ひとりの状態と行動の違いで単純には言えない難しい仕事ですが、スタッフは頑張っており、入居者様と一緒に元気で楽しく笑ってすごせるように、日々こころの支援をしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>家族や地域の方々との信頼関係構築を何よりも大切にしている。ホーム主催の行事に、家族や地域の方々を招いたり、運営推進会議参加者が楽しめるような工夫を行う等しており、毎回多くの家族から参加していただいている。利用者が家族や地域と関わりを継続しながら暮らし続けるための取り組みの一環となっていたが、新型コロナウイルス感染者の発生により休止し、職員は心を痛めている。コロナ禍において職員は、利用者が少しでも家族や地域の方々に関わりながら楽しく安全に暮らすことができるよう、ホーム内の定時換気や手洗い、消毒を徹底している。また、リモート面会を取り入れる等の工夫をしながらケアに取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見える場所に掲げ、職員会議時に読み上げており、日常の支援に反映させている。	ホーム独自の理念を作成し、パンフレットに掲載するとともに、常に目にすることができるよう玄関やホール、廊下、トイレ等に掲示し、共有を図っている。管理者と職員は理念に沿ったケアができるように日々取り組んでおり、毎月の職員会議で振り返る機会を作っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は積極的に保育園運動会や中学校文化祭等に参加していたが、今年春以降はコロナ禍のため交流できていない。	近隣保育園の運動会や中学校の文化祭に参加したり、保育園の訪問を受け入れる等、積極的に交流の機会を作っている。法人全体で行う行事に地域住民も招待している。コロナ禍においては、外部との交流がほとんど困難なため、近隣を散歩して周辺の景色を目にし、地域の一員であることを感じられるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス対策を行い、見学者や相談者を受け入れている。コロナ禍のため地域研修会に参加できていない。長年継続している地域の方々とスタッフが一緒に行う地域研修会(認知症の勉強会)は今年度実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の発症後から例年通りの運営推進会議ができていない。会議で意見の聞き取りができず、お知らせ便りで簡単な状況報告のみを実施している。	参加型や学習型、お楽しみ型等、様々なテーマを工夫して2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。包括支援センター職員や民生委員、町内会長のほか、利用者家族も多数参加してくれている。家族が参加して活発な意見交換を行うことにより、信頼関係構築の一助となっている。現在はコロナ禍のため、文書を送付し、意見や提案をいただく取り組みとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	感染症対応にあたり、市役所や保健所等、各関係機関から様々な報告やご指導を密にいただいている。例年通りの運営推進会議が開催できないため、行政職員の参加ができていない状況である。自己評価や外部評価票の提出と報告を行っている。	市の担当課とは日頃から電話等で情報交換を行っている。制度に関する疑問等を電話したり、直接訪問して聞く等して連携を図っている。コロナ禍においては、より頻回に電話やFAX、メール等を利用して情報のやりとりを行っている。ホームが困難な状況にあったときは、市の職員が直接ホームに足を運んでいただき、提案や助言から状況改善につながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容やその弊害について職員会議で定期的に勉強している。日中は施錠せず、オープンにしている。入居者様が外に行きたいときは、できる限り付き添っている。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月に1回会議を開催し、取り組みの確認と勉強会を行っている。管理者と職員は身体拘束を行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでいる。日中は施錠せず、定時換気のため窓も開放させることが多いため、職員が協力して見守りし、帰宅願望の強い利用者には一緒に散歩する等している。ホームの両隣にある法人内施設からも見守りの協力を得ることができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の目チェックリスト」でスタッフの心の振り返りを行い、虐待はしないという意識で支援を行っている。身体観察で何かしらの紫斑が観察された際は、きつき報告書に書き出している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見利用していた入居者様がおり、概要について理解をしている。ご家族からの相談時は、情報提供や必要な支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ホームの理念やケア方針、取り組みについて説明を行い、同意を得ている。料金の改定に伴う変更時も同様に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症により例年通りの面会状態ではないが、感染対応を行いながら日々の状況を報告し、意見をいただいている。運営推進会議のメンバーに、ご家族が加わっているが、現状では会議ができていない。	利用者と家族から気軽に話していただける関係作りができるように日頃から信頼関係構築に努めている。運営推進会議やホーム行事への家族参加率は高いため、会話の機会が多い。意見や苦情等があった場合は、申し送りや会議で話し合い、早急に対応策を検討している。家族には毎月手紙で利用者の暮らしの様子を報告している。自由に面会できない期間は、電話連絡を増やす等している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や職員と定期的に面談を行っている。職員会議で話し合いの機会を設けている。	年1回、施設長との面談があり、職員の思いや意向を確認している。申し送りや月1回の会議では、自由に意見交換ができる。出された意見は職員間で話し合い、業務に反映される環境になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、健康診断を行っている。勤務希望日を確認し、融通の利く配慮を行っている。合意があれば勤務交換を自由にできる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前年までは、自己研鑽研修の自由参加や法人研修を毎月開催し、受講していた。今年度はコロナ禍のためできていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スタッフが各ネットワークを持っていて、交流する機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅訪問し、本人やご家族と面談し、状況把握に努めている。本人またはご家族の意向や不安、困りごとを把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に自宅訪問し、本人及びご家族と面談している。お話を伺いながら、不安な思いを少しでもなくし、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を聞き取り、できることやできないこと、支援が必要なこと、望む暮らしにあったこと等の把握に努めている。十分に時間をかけてサービスの説明を行い、理解していただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに生活していく中で、表情や言葉、態度から、楽しみ悲しみ苦しみに目を向けている。適時に興味があることを手伝い、一緒に行って力を発揮していけるように支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告をしながら、こちらからの支援方法を伝え、相談しながら意見を聞いてサービスに繋げている。ご家族とともに利用者を支える関係を作れるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、今までの様な自由な帰省や外出は難しくなっている。できる限り、行きつけの美容室を利用する等、入居者様の希望に沿えるように対応している。	家族や友人等の面会を積極的に受け入れていたが、コロナ禍の現在は、玄関先で短時間の面会やリモート面会に対応している。電話のやりとりを増やしたり、利用者の日々の状況を動画に撮って家族に送る等の工夫をして、関係が途切れないよう支援している。家族と一緒に美容院に出かけたり、帰宅や外泊等の支援を感染予防対策を徹底しながら可能な範囲で行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格を把握し、孤立しないように、レクリエーションに参加を促したり、お茶会を行う等、全員で楽しく交流ができるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族から相談や依頼がある際は、随時対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身で意向を伝えきれない入居者様が多いため、ご家族に確認し、推測して検討している。毎月モニタリングを実施している。日々の支援や会話の中から、思いや望み等を把握できるように努めている。	日々の何気ない会話から思いや意向を把握できるよう心掛けている。ケアを通して、利用者の言動や表情を注意深く観察し、察するように努めている。家族から電話や手紙で情報収集し、申し送りや日誌を利用して全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様とご家族から話を伺いながら、大切な生活歴や背景について情報収集をしている。生活歴はもちろん、地域性も考慮して話題に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過に記録し、1日の過ごし方や行動、声掛け等からわかることを支援につなげている。生活をともにする中で、入居者様の生活リズムを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやミーティングで日常的な気づきや意見を出し合い検討している。介護計画は、入居者様やご家族、職員間で話し合っ作成している。毎月モニタリングを実施し、半年毎または随時見直しを行っている。	日々の会話や見守りを通して、利用者の意向把握に努めている。計画作成時は、家族に担当者会議に出席していただき、意見や希望を聞いている。職員の日々のケアを通じた気づきを参考にしながら個別の介護計画を作成している。計画の実施期間は6ヶ月で、毎月のモニタリングと期間終了時の評価を行っている。状態変化等により必要時には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や身体状況等について記録している。また、計画に沿って対応したか等についての記録も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のため、例年通りの外出支援は難しくなっている。終末期の看取り希望等の確認を適時行っている。状況に応じて訪問看護を利用し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター主催による、地域サービス事業者によって構成された、(認知症)ネットワーク組織で協力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前と同様のかかりつけ医を利用継続している。必要時は、入居者様やご家族が希望する医療機関を選択していただき、受診支援をしている。	入居時の話し合いで、これまでの受療状況を把握し、定期外の受診を含めて利用者と家族が希望する医療機関を適切に受診できるように、可能な範囲で家族の協力も得ながら支援している。受診結果は、電話や手紙等で報告して共有を図り、必要時は、家族にも受診に同行していただいている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の身体状況に変化あった際は、直ちに看護師である管理者に報告し、指示を仰いでいる。受診の際は、看護師や医師に状態報告する点を理解して受診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関への情報提供を速やかに行っている。退院時は、入院中の状況等を入院先関係者から聞き取り、情報に基づいてスタッフ間で相談し、退院後の支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況をみながら終末期の過ごし方について聞き取りを行い、書面に残している。意向を確認時、ホームでできる対応の限度や困難なこと等を説明している。医療機関には必要に応じて相談し、重度化から終末期に関しての助言やご指導をいただいている。	状態変化があった場合は、随時家族や主治医と話し合っている。主治医が看取りと判断し、家族がホームでの看取りを希望する場合は、重度化・終末期対応指針に基づき、ホームでできること、困難なことを説明し、意向を確認した旨をフェイスシートに記載している。日頃から職員が不安なく対応できるように勉強会を行っている。急変時等は、看護師である施設長に相談する体制となっており、協力医の往診や訪問看護の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前年までは、全職員が救急救命研修を受講していた。今年はコロナ禍のため受講していない。ホーム内にAEDを設置している。緊急時の報告や非常時のスタッフ呼集連絡網がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	適切な避難誘導が行えるように、定期的に訓練を行っている。年1回、消防署員立ち合いの訓練を実施している。業者による消化器や感知器の点検を行っている。	日中および夜間を想定した避難誘導策と緊急連絡網を作成している。月1回、ホーム独自で初動確認を中心とした訓練を行っている。また、年1回消防署立ち合いの避難訓練を行っており、近くに住む町内会長に災害時の協力をお願いしている。年2回業者委託で設備点検を行い、災害時に備えて水やそば等の食料、発電機、石油ストーブ、カセットコンロ等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に声掛けするときは、必ずさん付けでお呼びしている。入居者様に対し、拒否や指示等、言葉による虐待につながるよう注意し、虐待の目チェックリストでスタッフの心を振り返っている。	言葉遣いや声掛けには十分注意し、プライバシーに配慮しながら一人ひとりのペースに合わせたケアができるよう取り組んでいる。虐待の目チェックリストを利用して、職員が自身のケアを振り返る機会を作り、業務の中で気になることがあった際は、施設長がホーム全体の問題として注意喚起し、改善に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きなアメやテレビ番組を選んでもらったり、入居者様のできる範囲で自己選択を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の大体の流れは決まっているが、利用者の様子に合わせて対応し、過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は、鏡やクリーム、ブラシ尚の朝セットをテーブルにセットし、自分でやっていただいている。衣類整理し、季節の衣類や不足な品等の確認や補充の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルス感染症の発生から保健所指導やスタッフ減の影響により、以前通りの食事形態を中止しており、食事調理ができていない。時折家族からいただいた野菜の下ごしらえをお願いしたり、食器拭き等の手伝いを促している。	職員が1年交代で給食係となり、利用者の希望を聞いて献立を作成している。残食確認で食事状況を把握している。身体状況により食事の形状に配慮して、全ての利用者が適切に栄養摂取できるように取り組んでいる。職員は、利用者が楽しく安全に食事できるように見守りと声掛けをしながら必要な支援を行っている。一人ひとりの力量や意向に合わせて、下ごしらえ等を手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取状況は概ね把握しており、摂取不良者は医師報告や補助飲料で体調観察に努めている。状態低下等の際は、必要に応じ、食事形態の変更やスムーズに水分補給できるようにゼリーを提供する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に添い、毎食後に口腔内の洗浄を個別に働きかけ、能力に応じた支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿回数や失禁状態等を把握し、不快感がないような交換やトイレ誘導の支援をしている。また、適切な排泄用品を必要に応じて使用している。プライバシーに配慮し、声掛けやカーテン等で個別対応をしている。	一人ひとりの排泄状況を記録し、パターンを把握している。見守りを行って排泄サインも見逃さず、できるだけトイレで排泄できるように支援している。身体機能や体調の変化により排泄用品の変更が必要になったときは、利用者と家族に相談している。介助時は周囲に気付かれないよう小声での声掛けやカーテンを使用する等、プライバシーに十分配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すようにカスピ海ヨーグルトを毎朝提供している。排便観察した状況を、必要に応じて医師に報告相談する等、適切に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	浴室では常に目を離さない。湯温度は温度計とスタッフの皮膚感覚で確認し、体調に配慮して浸かり過ぎに注意している。入浴はできる限り好みや意向に添うように努力している。	1対1の介助が基本だが、安全に配慮して、ときには職員二人で介助することがある。浴槽をまたぐのが困難な場合は、機械浴で対応している。拒否が見られた場合は、時間を置いたり声掛けの仕方を工夫する等し、週2回は入浴できるよう支援している。熱い湯や長湯等の希望には、職員が注意深く見守りし、声掛けしながら体調に支障がない範囲で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠状況を確認し、不眠時や不穏時は水分補給やトイレ介助で入眠を促している。それでも眠れない場合は、無理強いしないでホームで一緒に過ごす等の支援をしている。継続する不眠に対しては、医師に相談をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理している。誤薬がないように、職員2名で声掛けし、確認してから投与している。状態不良で受診する際は、家族に同行していただき、状況や服薬の説明をしている。処方薬の変更時は職員へ周知し、状態経過を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活する中で経歴や力量を確認することができ、可能なことを手伝いしていただく等している。日中は軽体操を行い、他の時間はそれぞれのペースで過ごしている。面会時に持ってくるおやつ等は、気兼ねなく食べられるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の発症以降、スタッフが減少し、個別外出支援が難しい状況となっている。ショッピングセンターへの食事外出等の屋外行事は、家族の協力を得ながら支援を行っていたが、コロナ禍で今年ではできずにいる。	ホーム内外で行う季節毎の行事を多く計画し、家族の協力を得ながら賑やかにやっている。希望による個別の外出にも対応しており、できるだけ外出の機会を作るように取り組んでいる。現在はコロナ禍のため、困難な状況からホームの敷地周辺を散歩するなどして気分転換を図っている。また、感染予防対策をしながらホーム内でできる行事やレクリエーション、創作活動等を行い、利用者が楽しみながら生活できるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者様が自己金銭管理を行っていない。ご家族から依頼を受け、ホームで金銭を預かっている。使用した金額の報告は毎月行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍のため以前のように面会ができなくなったため、リモート面会を開始した。入居者様が電話を希望するときは、支援をしている。また、ご家族からの連絡時は速やかに取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が清潔な場所で過ごせるように、清掃を実施している。新型コロナウイルスに対応し、換気等を行って空調管理をしている。ホーム内の飾り付けは、季節を感じてもらえるように工夫したり季節の植物を設置して楽しんでいる。	落ち着いた雰囲気や壁飾りや利用者の作品である書や水墨画の掛け軸を飾ったり、季節に合わせた生け花や植物を飾り、家庭的な雰囲気が保たれている。利用者が気持ちよく過ごせるように、適切な温度と湿度管理に努めている。定期的に大きな窓を開けて換気したり、ホールのテーブルは利用者同士の間で透明な仕切りを取り付ける等、新型コロナウイルス感染防止に配慮した環境作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活の中で入居者様同士の関係性を考慮し、居心地良い場所の提供に努めている。共同スペースや居室では、それぞれのんびりと過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前調査の際、自宅で使用して愛着ある品の持参を積極的にお願している。居室の環境作りはスタッフが入居者様と一緒にやっている。居室のセッティングをお手伝いしている。	新しい生活環境で穏やかに過ごしていただけるよう、入居時に馴染みの物を持参することを家族にお願いしている。位牌やタンス、テーブル、飾り物等の持ち込みがある。持ち込みが少ない場合は、利用者と相談して、入居後に撮った写真を飾る等し、安心して過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ移動や場所確認の際に、混乱しないように名前の表示や分かるマークを記している。廊下や必要な場所に手すりを設置しており、全室バリアフリーとなっている。		